

(小規模企業景気動向調査)

三重の景況

No.62

(平成 25 年 1 月～6 月期)

三重県商工会議所連合会
桑名商工会議所
四日市商工会議所
鈴鹿商工会議所
亀山商工会議所
津商工会議所
松阪商工会議所
伊勢商工会議所
鳥羽商工会議所
上野商工会議所
名張商工会議所
尾鷲商工会議所
熊野商工会議所

はじめに（総括）

三重県商工会議所連合会では、県下 12 商工会議所合同で、地域の小規模企業を対象とした景況調査を年 2 回実施しています。このたび平成 25 年上期の調査結果がまとまりましたのでご報告します。

三重県下の景況を示す指標である「現状」の D I 値は、 $\Delta 26.9$ と平成 24 年下期に比べ 11.7 ポイント改善しており、前期に引き続き今期も改善傾向となっております。

業種別の「現状」D I 値は、交通運輸業 $\Delta 26.7$ (前期 $\Delta 24.5$)が前期より 2.2 ポイント悪化していますが、小売業 $\Delta 42.8$ (前期 $\Delta 54.9$)、飲食業 $\Delta 29.7$ (前期 $\Delta 48.6$)、卸売業 $\Delta 27.8$ (前期 $\Delta 48.8$)、建設業 $\Delta 9.2$ (前期 $\Delta 20.1$)、サービス業 $\Delta 27.8$ (前期 $\Delta 42.0$)、製造業 $\Delta 31.5$ (前期 $\Delta 35.6$)が前期より改善となりました。特に飲食業が前期に比べて 18.9 ポイント、卸売業と 21 ポイントの改善となりました。

地区別の D I 値では、北勢地区 $\Delta 26.3$ (前期 $\Delta 35.9$)、中勢地区 $\Delta 27.2$ (前期 $\Delta 38.4$)、南勢地区 $\Delta 20.0$ (前期 $\Delta 40.8$)、伊賀地区 $\Delta 28.3$ (前期 $\Delta 38.9$)、東紀州地区 $\Delta 39.1$ (前期 $\Delta 50.5$)となりました。

今後の見通しでは、D I 値は $\Delta 23.5$ (前回 $\Delta 32.4$)となり、8.9 ポイント改善となりました。業種別、地区別についてもすべての業種、地域で改善しており、今後の景況に対する期待感が窺えます。

「売上状況」「売上の見通し」「利益状況」「販売条件」の項目について前期よりも改善傾向となっておりますが、「仕入条件」のみ 3.9 ポイントの悪化となりました。地区別においても、南勢地区(1.4 ポイント回復)を除く地域で悪化が見られ、北勢地区では $\Delta 7.1$ ポイント悪化しました。

景気の方角性を示す項目である設備投資は、「予定している」とした割合は、全体で 9.7% (前期 10.7%) と 1.0% 減少しました。業種別では、交通運輸業が 31.1% と他の業種よりも多く設備投資を行っており、卸売業が 5.7% と最も低い数値となりました。また、地区別では中勢地区が実績 15.3% と最も高く、予定では中勢地区が 10.4% と最も高くなっています。

「借入の状況（難易度）」の D I 値は、全体で $\Delta 1.3$ (前期 $\Delta 4.2$)と 3.1 ポイント改善し、業種別では製造業、サービス業、交通運輸業で、地区別では北勢地区、中勢地区の改善が見られました。

また、「借入を予定している」と回答した企業の割合は 16.3% (前期 14.5%) と 1.8% 増加し、「使途予定」については“運転資金”の割合は 73.5% (前期 72.8%) で“設備資金”の割合は 21.6% (前期 23.8%) となりました。

以上が本調査結果の概要です。本調査報告書が皆様の今後の企業経営の参考や小規模企業に対する皆様の更なる理解に資することになれば幸いに存じます。

最後に本調査の実施、作成にあたりましては、調査対象企業をはじめ関係各位の皆様にご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

平成 25 年 8 月

三重県商工会議所連合会-

も く じ

(調 査 内 容)

・ 調査要領	1
1. 現状と今後の見通し	4
現況D I 値の推移	6
2. 売上状況	8
3. 今後の売上見通し	8
4. 利益状況	9
5. 販売条件	9
6. 仕入条件	10
7. 設備投資	10
8. 資金繰り状況と今後の見通し	11
9. 借入状況	12
借入難易度D I 値の推移	13
10. 借入予定	14
11. 借入希望先	14
12. 借入金の使途予定	15
13. 経営上の問題点	15
・ 県下商工会議所地域における景況	17
・ 調査票（写し）	

「三重の景況」調査要領

1. 調査目的

当調査は、三重県商工会議所連合会と県下12商工会議所[*1]が、小規模企業[*2]の動向を合同で調査することにより、県内小規模企業の景況把握を、地区別[*3]に行い、合わせて各会議所地域ごとの景況を調査することにより、各商工会議所の事業活動の参考とすることを目的とする。

[*1] 県下商工会議所

桑名商工会議所	中小企業相談所
四日市商工会議所	中小企業相談所
鈴鹿商工会議所	中小企業相談所
亀山商工会議所	中小企業相談所
津商工会議所	中小企業相談所
松阪商工会議所	中小企業相談所
伊勢商工会議所	中小企業相談所
鳥羽商工会議所	中小企業相談所
上野商工会議所	中小企業相談所
名張商工会議所	中小企業相談所
尾鷲商工会議所	中小企業相談所
熊野商工会議所	中小企業相談所

[*2] 小規模企業（中小企業基本法による）

卸売・小売・サービス業は従業員5人以下、製造・建設・その他の業種については20人以下。（会社の役員・家族従業員・パートを除く）

[*3] 県内各地区は下記のとおり

北勢地区……桑名・四日市・鈴鹿・亀山
中勢地区……津・松阪
南勢地区……伊勢・鳥羽
伊賀地区……上野・名張
東紀州地区…尾鷲・熊野

2. 調査対象・回答状況

県下12議所の会員企業中、任意抽出した小規模企業9,155社を対象とした。回答状況は、回答率26.2%、回答企業2,404社であった。

3. 調査方法

FAXまたは郵送方法によるアンケート方式

4. 調査期間

平成25年7月1日～7月12日

※当調査は、“1月～6月期”と“7月～12月期”の年2回、調査を実施している。

5. 集計方法

外部委託を行い、一括コンピュータ集計を行った。

6. 調査結果の取りまとめ

調査結果の取りまとめについては、伊勢・鳥羽・尾鷲・熊野の4商工会議所が担当した。なお、各商工会議所地域の景況は当該商工会議所が担当した。

DI値（ディフュージョン・インデックス）の見方について

DIとは景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動（強気や弱気など）を知るものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及のない限り、「増加」「好転」したとする企業割合から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

（注）図表中の数値表示について

図表中の数値については小数点以下第2桁で四捨五入をしているため、合計が100.0にならない場合があります。

業種別・地区別回答状況

単位:企業 ():% 上:業種別構成率 下:地区別構成率

業種	地区	北勢				中勢			南勢			伊賀			東紀州			計		
		桑名	四日市	鈴鹿	亀山	津	松阪		伊勢	鳥羽		上野	名張		尾鷲	熊野				
製造業	食料	37	13	12	10	2	24	7	17	11	9	2	8	3	5	16	12	4	96	
	せんい	10	5	3	1	1	5	3	2	1	1	0	10	10	0	1	1	0	27	
	機械	66	38	13	13	2	15	5	10	14	6	8	6	2	4	1	1	0	102	
	金属製品	75	30	18	25	2	17	5	12	8	8	0	6	4	2	0	0	0	106	
	木材	23	11	5	3	4	17	1	16	3	3	0	4	2	2	7	4	3	54	
	化学	9	2	5	1	1	3	2	1	2	2	0	3	1	2	0	0	0	17	
	窯業	11	1	4	5	1	4	1	3	2	2	0	0	0	0	1	1	0	18	
	印刷出版	13	6	2	3	2	14	7	7	5	5	0	3	0	3	3	1	2	38	
	その他	62	21	13	15	13	16	6	10	25	11	14	12	4	8	9	6	3	124	
	計	306 (26.0) (52.6)	127	75	76	28	115 (22.2) (19.8)	37	78	71 (23.0) (12.2)	47	24	52 (24.5) (8.9)	26	26	38 (20.1) (6.5)	26	12	582 (24.2) (100.0)	
非製造業	卸売業	食料	21	8	8	3	2	8	3	5	8	6	2	2	1	1	5	4	1	44
		せんい	3	2	0	1	0	4	1	3	2	2	0	2	0	2	0	0	0	11
		その他	39	14	21	3	1	26	7	19	8	7	1	12	5	7	1	1	0	86
		(小計)	63	24	29	7	3	38	11	27	18	15	3	16	6	10	6	5	1	141
	小売業	せんい	33	13	12	4	4	24	7	17	16	11	5	4	2	2	13	6	7	90
		食料	48	19	11	14	4	17	3	14	7	5	2	8	3	5	19	9	10	99
		日用品	6	6	0	0	0	5	2	3	11	5	6	1	1	0	2	2	0	25
		電気製品	19	8	2	6	3	9	3	6	9	6	3	6	2	4	5	3	2	48
		その他	84	30	21	22	11	40	7	33	19	16	3	25	11	14	17	13	4	185
		(小計)	190	76	46	46	22	95	22	73	62	43	19	44	19	25	56	33	23	447
	サービス業	美容・理容	40	9	15	12	4	12	5	7	6	4	2	3	0	3	0	0	0	61
		ホテル旅館	4	0	0	4	0	5	1	4	6	1	5	0	0	0	5	3	2	20
		自動車整備	32	16	5	7	4	21	7	14	6	5	1	8	1	7	9	5	4	76
		不動産	37	18	16	1	2	19	6	13	10	8	2	8	0	8	0	0	0	74
		その他	87	30	27	19	11	27	13	14	28	24	4	15	3	12	5	1	4	162
	(小計)	200	73	63	43	21	84	32	52	56	42	14	34	4	30	19	9	10	393	
	建設業	土木工事	65	14	17	25	9	16	10	6	5	2	3	12	4	8	7	5	2	105
		建築工事	109	42	25	30	12	42	21	21	23	17	6	14	4	10	13	10	3	201
		その他	115	30	47	32	6	53	27	26	22	18	4	17	2	15	9	6	3	216
		(小計)	289	86	89	87	27	111	58	53	50	37	13	43	10	33	29	21	8	522
	飲食業	56	21	15	16	4	28	7	21	27	22	5	12	7	5	22	13	9	145	
	交通運輸業	12	5	4	1	2	25	6	19	2	2	0	2	0	2	4	4	0	45	
	計	810 (68.9) (47.8)	285	246	200	79	381 (73.6) (22.5)	136	245	215 (69.6) (12.7)	161	54	151 (71.2) (8.9)	46	105	136 (72.0) (8.0)	85	51	1,693 (70.4) (99.9)	
その他	60 (5.1) (46.5)	16	28	10	6	22 (4.2) (17.1)	19	3	23 (7.4) (17.8)	20	3	9 (4.2) (7.0)	1	8	15 (7.9) (11.6)	12	3	129 (5.4) (100.1)		
合計	1,176 (100.0) (48.9)	428	349	286	113	518 (100.0) (21.5)	192	326	309 (100.0) (12.9)	228	81	212 (100.0) (8.8)	73	139	189 (100.0) (7.9)	123	66	2,404 (100.0) (100.1)		

1. 現状と今後の見通し

a) 現状（図－1・2・3参照）

全回答企業 2,404 事業所中、「良い・やや良い」が 17.9%、「変わらない」が 36.9%、「悪い・やや悪い」が 44.8%で、D I 値は△26.9（前回△38.6）となり前回より 11.7 ポイント改善している。

業種別のD I 値では、小売業△42.8、交通運輸業△26.7、飲食業△29.7、卸売業△27.8、建設業△9.2、サービス業△27.8、製造業△31.5、その他△17.3の順となっている。

地区別のD I 値では、北勢地区△26.3、中勢地区△27.2、南勢地区△20.0、伊賀地区△28.3、東紀州地区△39.1であった。

図－1 現状について（業種別）

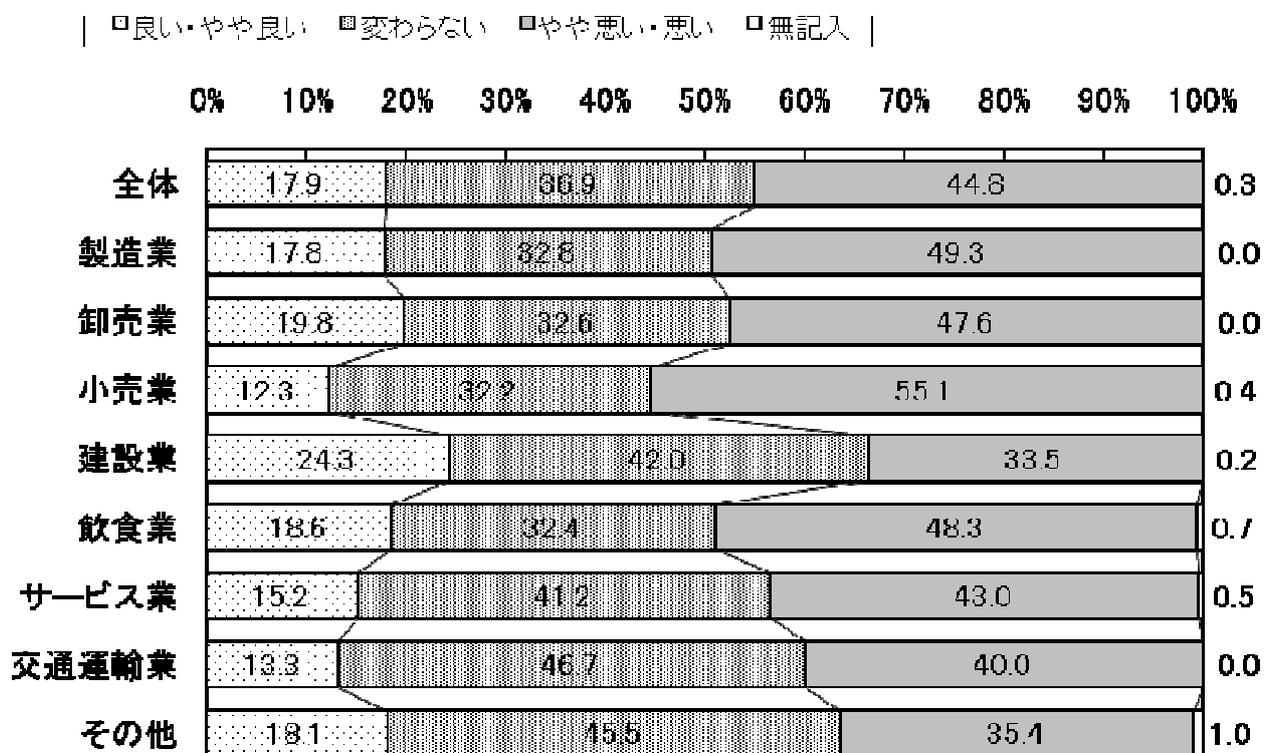
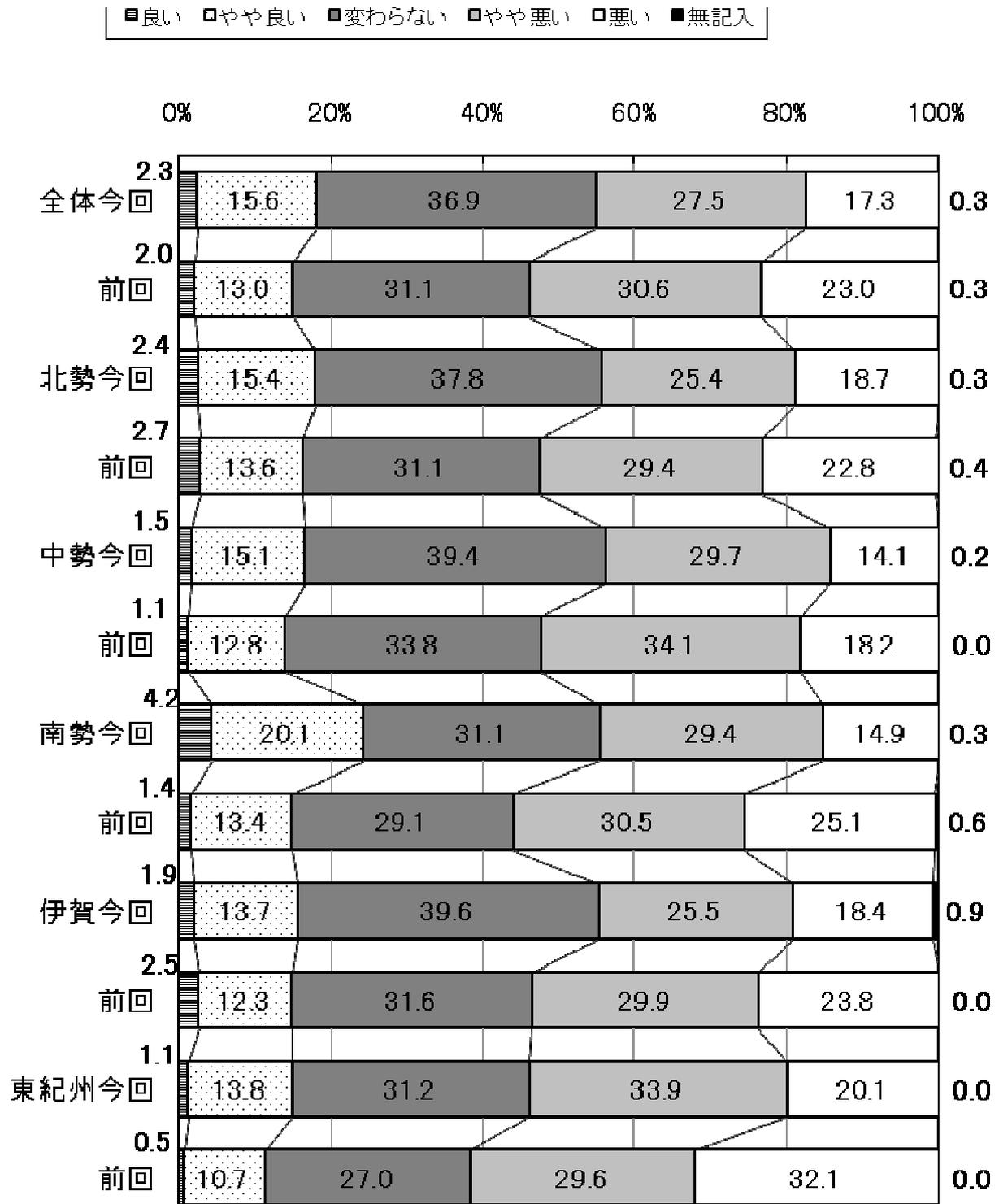


図-2 現状について（全体・地区別）



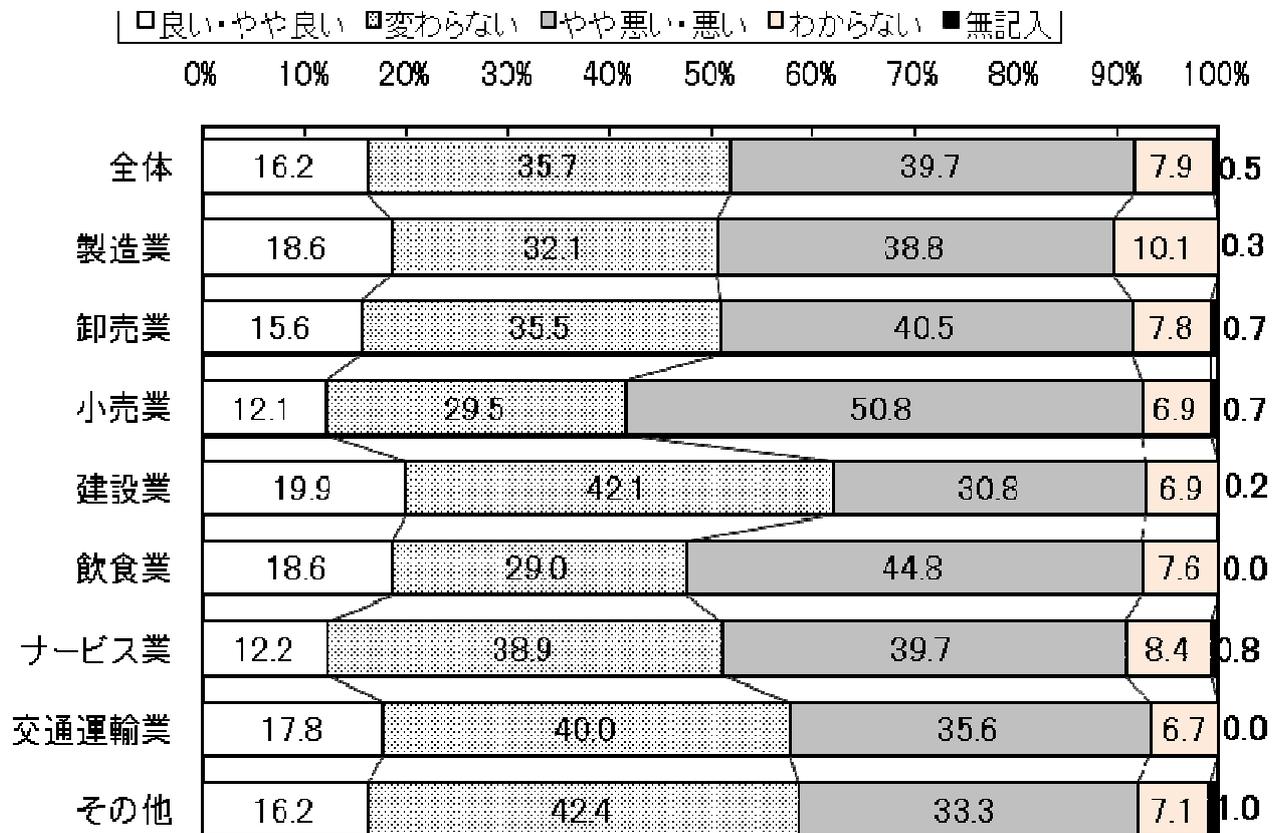
b) 見通し（図－4参照）

全体の見通しでは、「良い・やや良い」が 16.2%に対し、「悪い・やや悪い」は 39.7%で、D I 値は △23.5（前回△32.4）となり、8.9ポイント改善となった。

業種別では、D I 値で小売業△38.7、サービス業△27.5、飲食業△26.2、卸売業△24.9、製造業△20.2、交通運輸業△17.8、その他の業種△17.1、建設業△10.9、の順であった。

地区別のD I 値では、北勢地区△23.4、中勢地区△18.9、南勢地区△17.8、伊賀地区△26.4、東紀州地区△41.8であった。

図－4 今後の見通しについて（業種別）

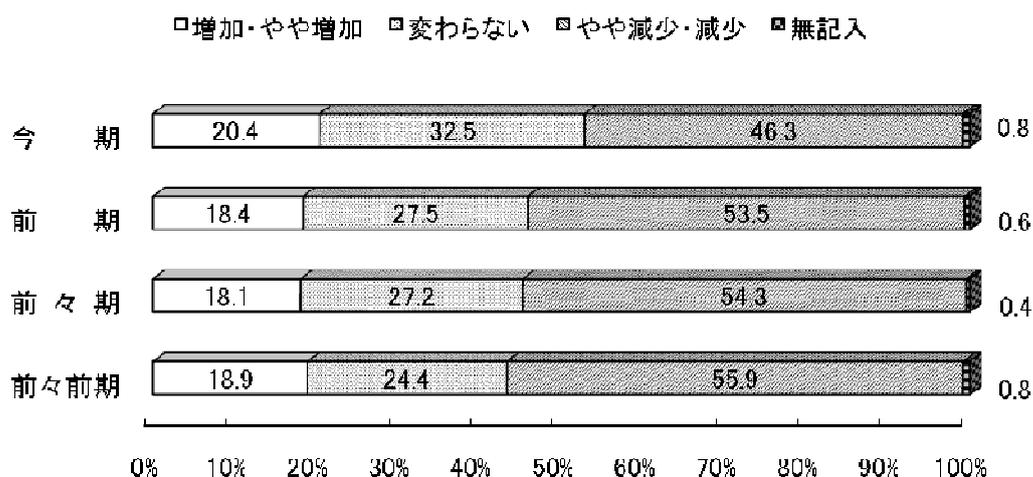


2. 最近の売上状況（図－5参照）

全体では、「増加・やや増加」が20.4%（前回18.4%）、「やや減少・減少」が46.3%（前回53.5%）で、D I 値は△25.9（前回△35.1）となり、9.2ポイント改善した。

業種別でも、全業種とも改善されており、特に卸売業では、△21.2（前回△42.2）と21.0ポイント改善している。地区別でも、全地区が改善となった。特に東紀州地区△34.9（前回△55.1）と20.2ポイントの改善となった。

図-5 売上状況

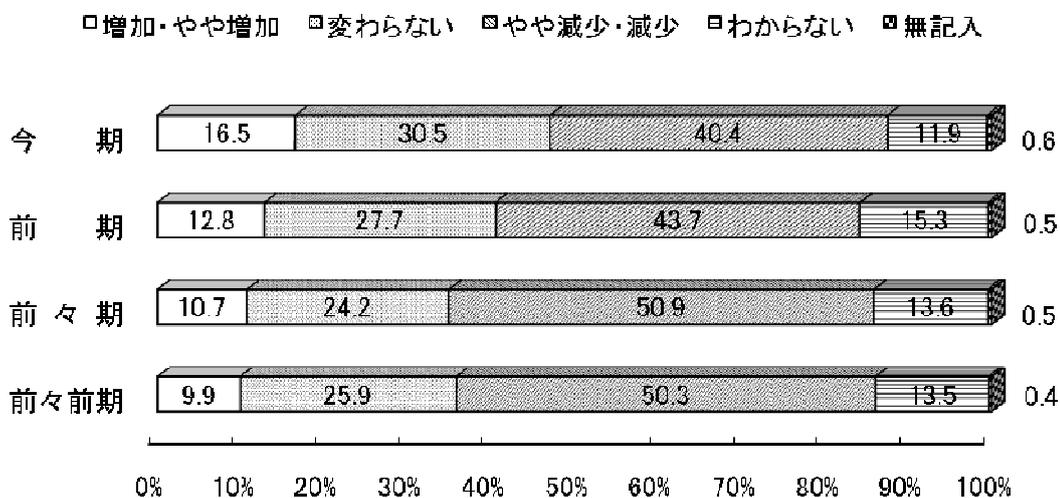


3. 今後の売上見通し（図－6参照）

全体では、「増加・やや増加」が16.5%（前回12.8%）、「やや減少・減少」が40.4%（前回43.7%）で、D I 値は△23.9（前回△30.9）となり、7.0ポイント改善の見通しとなった。

業種別では、全業種とも改善されており、特に交通運輸業では、△9.0（前回△28.8）と19.8ポイント改善している。地区別では、すべての地区で改善が見られ、特に南勢地区で△12.0（前回△33.6）と21.6ポイントの改善となった。

図-6 売上見通し



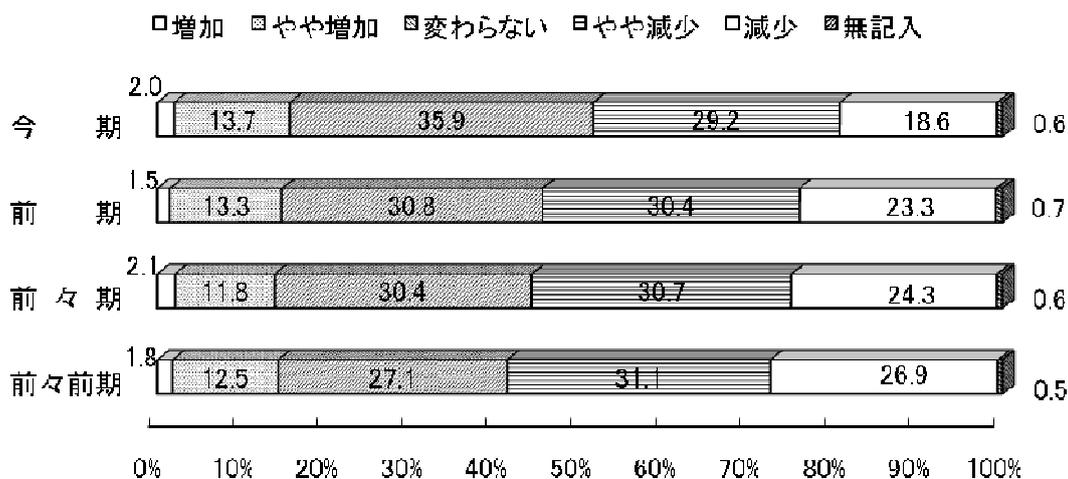
4. 利益状況 (図-7参照)

全体では、「増加・やや増加」15.7% (前回14.8%)、「やや減少・減少」が47.8% (前回53.7%)で、D I 値は△32.1 (前回△38.9) となり、6.8ポイントの改善となった。

業種別では、全業種が改善されており、特にその他の業種では、△19.2 (前回△37.8) と18.6ポイント、飲食業では、△31.1 (前回△46.2) 改善している。

地区別でも、すべての地区で改善となり、特に南勢地区では△22.7 (前回△45.3) と22.6ポイント改善している。

図-7 利益状況



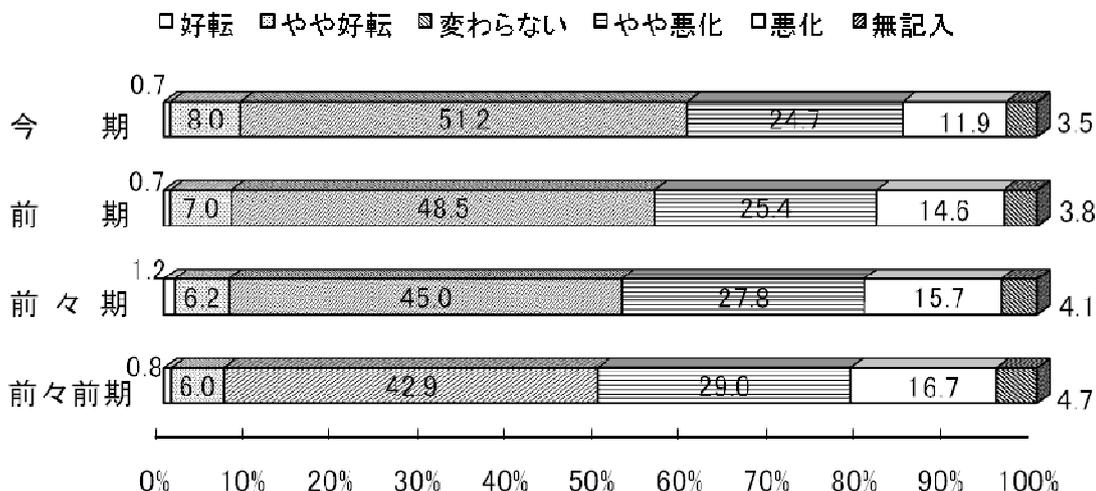
5. 販売条件 (図-8参照)

全体では、「好転」、「やや好転」が8.7% (前回7.7%)、「やや悪化」、「悪化」は36.6% (前回40.0%)で、D I 値は△27.9 (前回△32.3) となり、4.4ポイント改善となった。

業種別では、飲食業が△31.7 (前回△31.4) となり、0.4ポイント悪化が見られるが、それ以外の業種では改善している。特に小売業では、△39.2 (前回△49.8) と10.6ポイントの改善が見られる。

地区別では、全地区とも改善しており、特に南勢地区では、△24.2 (前回△38.8) と14.6ポイントの改善が見られる。

図-8 販売条件



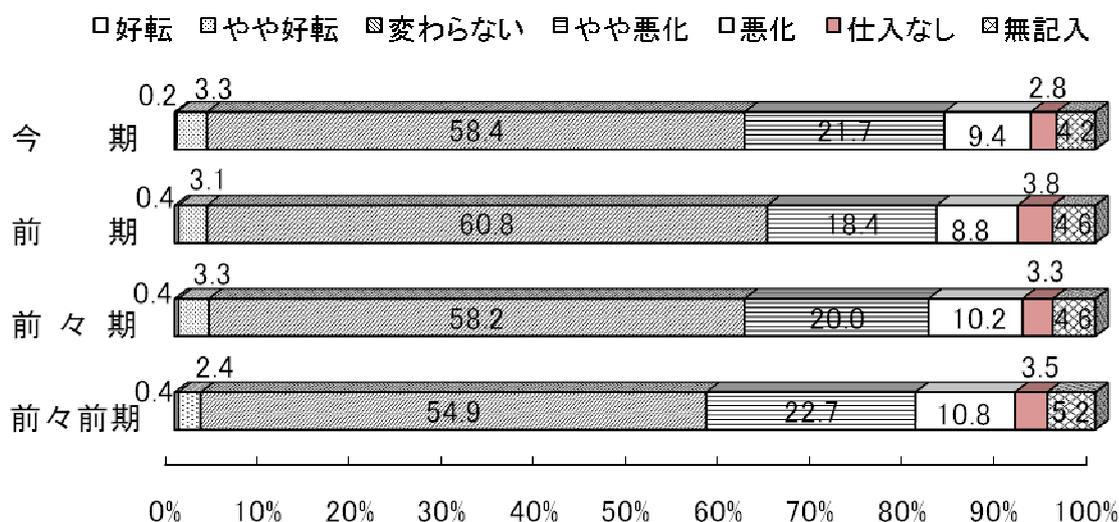
6. 仕入条件 (図-9参照)

全体では「好転」、「やや好転」が3.5% (前回3.5%)、「やや悪化」、「悪化」は31.1% (前回27.2%)で、D I 値は△27.6% (前回△23.7%) となり、3.9ポイント悪化となった。

業種別では、小売業 (2.2ポイント)、その他の業種 (6ポイント) 改善が見られるが、それ以外の業種では悪化している。特に交通運輸 (13.4ポイント)、製造業 (10.7ポイント) 飲食業 (10.2ポイント) とそれぞれ悪化している。

地区別では、南勢地区 (1.4ポイント回復) 以外で悪化が見られ、特に北勢地区では△7.1ポイント悪化した。

図-9 仕入条件



7. 設備投資 (図-10・11参照)

全体では、設備投資を行った企業は323社、13.4% (前回14.2%)、設備投資を予定している企業は233社、9.7% (前回10.7%) と減少した。

業種別では、交通運輸業が31.1%と他の業種よりも多く設備投資を行った。卸売業が5.7%と最も低い数値であった。また、地区別では中勢地区が実績15.3%と最も高く、予定では中勢地区が10.4%と最も高くなっている。実績9.5%、予定5.8%ともに東紀州地域が最も低い値となっている。

図-10 設備投資の実績

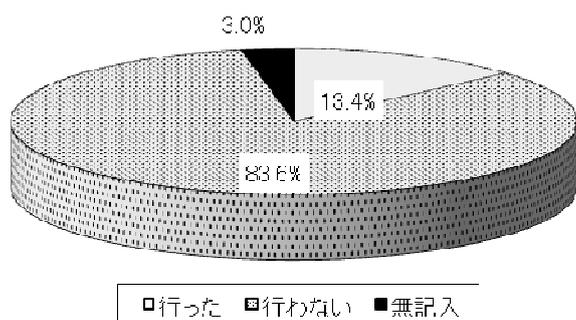
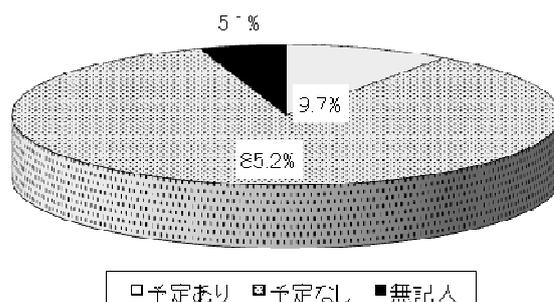


図-11 設備投資の予定



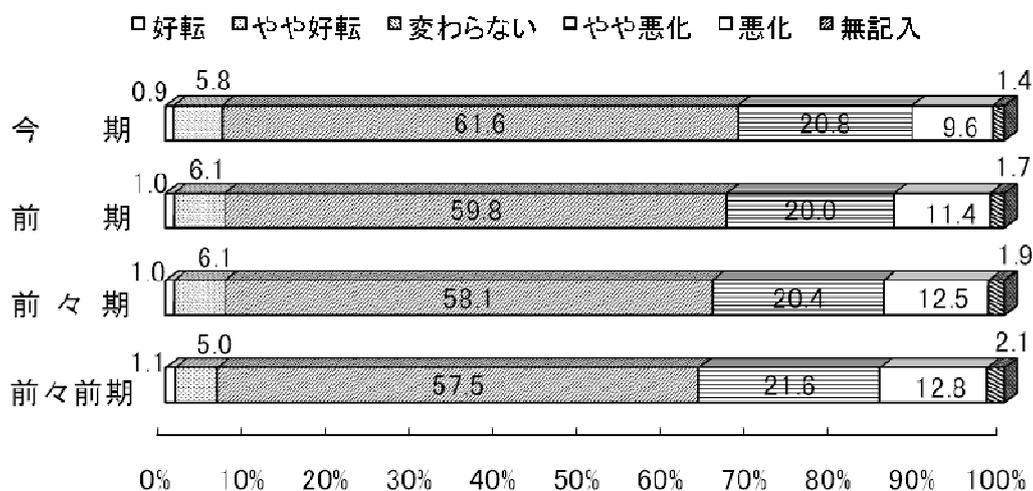
8. 資金繰り状況と今後の見通し

a) 現状 (図-12参照)

全体では「好転・やや好転」が6.7% (前回7.1%) に対し「悪化・やや悪化」は30.4% (前回31.4%) で、D I値は△23.7 (前回△24.3) となり0.6ポイント改善した。

業種別D I値では、製造業、飲食業、交通運輸業以外の全業種で改善が見られたが、特に目立った改善はなかった。地区別D I値では中勢・南勢地区以外は全地区で悪化した。

図-12 資金繰りの現状

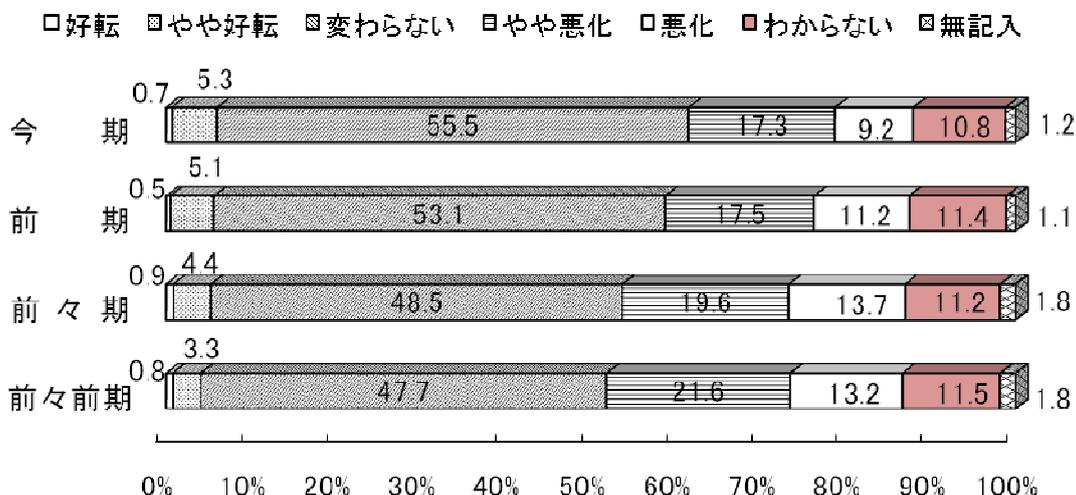


b) 見通し (図-13参照)

全体では、「好転・やや好転」が、6% (前回5.6%) に対し、「悪化・やや悪化」は26.5% (前回28.7%) で、D I値は△20.5 (前回△23.1) となり、2.6ポイント改善した。

業種別D I値では、飲食業以外の全業種で改善した。特に交通運輸業が△17.8 (前回△31.2) で13.4ポイント改善した。また、地区別D I値でも東紀州地区以外の全地区で改善した。

図-13 資金繰りの見通し



9. 借入状況

a) 現状

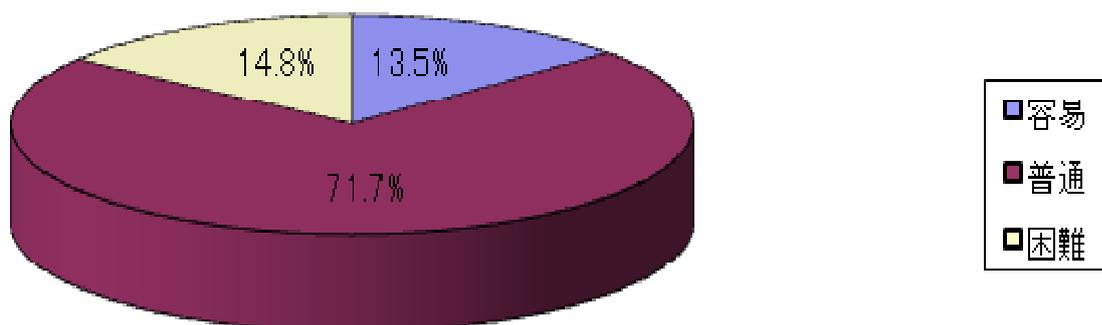
回答企業 2,404 社のうち、借入を実施した企業は、944 社、39.2%（前回 1,045 社、42.5%）であった。

b) 借入の難易度（図-14・15参照）

全体では、借入を実施した企業のうち、「容易」が 13.5%（前回 14.2%）、「困難」は 14.8%（前回 18.4%）で、DI 値は△1.3（前回△4.2）となり、3.1 ポイント改善した。

業種別DI 値では、製造業、サービス業、交通運輸業以外の業種で悪化した。また、地区別DI 値でも北勢地区、中勢地区以外の地区で悪化した。

図-14 借入の難易度

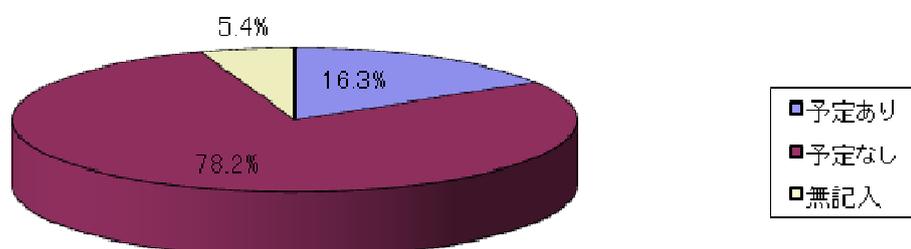


10. 借入予定（図－16参照）

全体では、回答企業 2,404 社中、借入を予定している企業は 393 社、16.3%（前回 14.5%）であった。

業種別で借入を予定しているのは、交通運輸業で 22.2%と最も高く、飲食業で 6.9%と最も低かった。また地区別では、伊賀地区が 17.5%と最も高く、南勢地区が 12.9%と最も低かった。

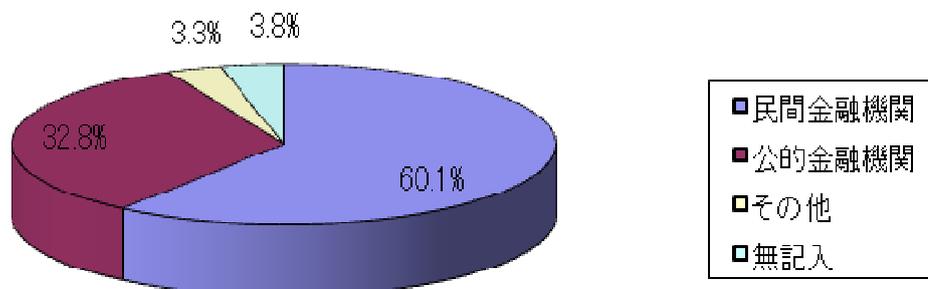
図－16 借入予定



11. 借入希望先（図－17参照）

借入を予定している企業のうち、「民間金融機関」が 60.1%（前回 59.1%）に対し、「公的金融機関」は 32.8%（前回 34.2%）で、民間金融機関での借入希望が増加した。

図－17 借入希望先

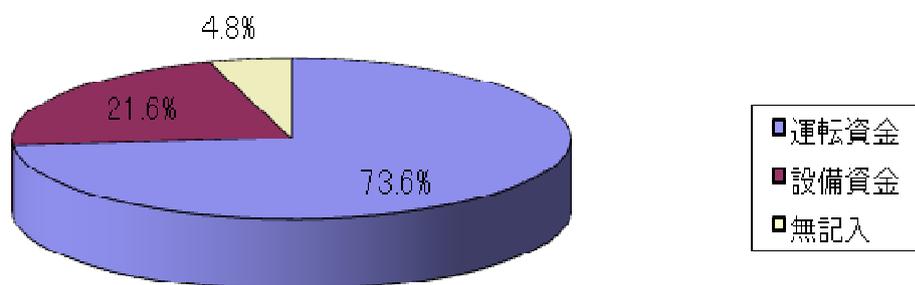


12. 借入金の使途予定（図－18参照）

全体では、借入を予定している企業のうち、「運転資金」が73.5%（前回72.8%）に対し、「設備資金」は21.6%（前回23.8%）であった。

業種別では、「運転資金」で小売業が85.1%、「設備資金」で交通運輸業が40.0%とそれぞれ最も高かった。

図－18 借入金の使途予定



13. 経営上の問題点（表－1参照）

全体では、「売上・受注の停滞減少」51.5%（前回57.5%）、「競争激化」31.0%（前回31.6%）、「設備店舗の狭小老朽化」16.9%（前回17.8%）の順となった。

業種別では、全業種で「売上・受注の停滞減少」の回答が最も多かった。業種別での2位の回答は、「競争激化」が最も多く、製造業では「製品・商品単価の下落」、飲食業では「原材料高及び不足」、交通運輸業では「人件費以外の経費増加」であった。

表－1 経営上の問題点(3項目以内複数回答)

区 分		第 1 位	第 2 位	第 3 位
業 種 別	製 造 業	売上・受注の停滞減少 (55.2)	製品・商品単価の下落 (25.6)	競争激化 (22.3)
	建 設 業	売上・受注の停滞減少 (48.9)	競争激化 (40.0)	人材育成 (21.3)
	卸 売 業	売上・受注の停滞減少 (60.3)	競争激化 (32.6)	製品・商品単価の下落 (17.0)
	小 売 業	売上・受注の停滞減少 (61.1)	競争激化 (37.1)	設備店舗の狭小老朽化 (18.8)
	飲 食 業	売上・受注の停滞減少 (45.5)	原材料高及び不足 (35.9)	設備店舗の狭小老朽化 (29.0)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 (42.2)	競争激化 (28.8)	設備店舗の狭小老朽化 (22.1)
	交通運輸業	売上・受注の停滞減少 (40.0)	人件費以外の経費増加 (28.9)	原材料高及び不足 競争激化 (20.0)
	そ の 他	売上・受注の停滞減少 (40.4)	競争激化 (30.3)	人材育成 (18.2)
地 区 別	北 勢	売上・受注の停滞減少 (52.2)	競争激化 (32.6)	人材育成 (16.7)
	中 勢	売上・受注の停滞減少 (52.3)	競争激化 (36.3)	設備店舗の狭小老朽化 (17.8)
	南 勢	売上・受注の停滞減少 (45.0)	競争激化 (26.9)	製品・商品単価の下落 設備店舗の狭小老朽化 (17.8)
	伊 賀	売上・受注の停滞減少 (53.3)	競争激化 (26.9)	製品・商品単価の下落 (19.8)
	東 紀 州	売上・受注の停滞減少 (52.9)	設備店舗の狭小老朽化 (20.6)	原材料高及び不足 競争激化 (18.5)
総 合		売上・受注の停滞減少 (51.5)	競争激化 (31.0)	設備店舗の狭小老朽化 (16.9)

県下商工会議所地域の景況

○桑名商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」との回答が 16.3%、「変わらない」が 35.3%、「やや悪い・悪い」が 47.6%、DI 値は△31.3（前回△39.2）で、前回調査と比べて 7.9 ポイントとマイナス幅が縮小し、厳しいながらも緩やかに改善している。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答が 14.3%、「変わらない」が 33.9%、「やや悪い・悪い」との回答は 40.4%、DI 値は△26.1（前回△32.7）となり、現状の DI 値と比べてプラス 5.2 ポイントと緩やかに回復が見込まれる。

目立った変化等

経営上困っている問題点としては「売上・受注の停滞・減少」の回答が 53.7%（前回 62.1%）と最も多く、続いて「競争激化」の回答が 30.6%（前回 31.5%）と前回と変わらないが、「原材料高及び不足」が 16.1%（前回 8.1%）と前回より上昇し、逆に「製品・商品単価の下落」は 11.9%（前回 18.5%）と減少している。

○四日市商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が 19.2%（前回は 16.2%）「変わらない」が 40.1%（前回は 30.7%）、「やや悪い・悪い」が 40.7%（前回は 52.1%）との結果となった。現状 DI 値は△21.5 で前回の△35.9 より、14.4 ポイントの改善を示す結果であった。

業種別に前回値と比較すると、製造業、卸売業、小売業、サービス業で改善傾向がみられ、なかでも卸売業、小売業、サービス業では DI 値で 20 ポイントを超える大きな改善がみられた。個別の詳細な業種では、不動産業の DI 値がプラスに転じた。

見 通 し

「良い・やや良い」が 18.9%「変わらない」が 38.7%、「やや悪い・悪い」が 33.8%となり、DI 値は△14.9（前回は△36.0）との結果となった。この値と今期の現状 DI 値△21.5 とを比較すると、DI 値は 6.6 ポイント上がり、今後景況感が改善していくと見込んでいる企業が多い結果となった。

業種別に前回見通し値と比較すると、5 業種すべての DI 値が改善しており、なかでも、製造業の DI 値は昨年と比べて 27.6 ポイント増と大幅に改善している。さらに詳細な分類の業種では、建築工事、繊維身の回り品小売業の DI 値が大幅な増加を見せプラスに転じていた。今後の業況見通しについて、改善する理由を自由記述項目の形で伺ったところ、「見積りへの依頼が増加している」「公共投資の増加が見込まれる」などの回答があった。

目立った変化等

全体の景況感をはじめ、売上、利益、販売状況についても DI 値が前回と比べて改善を示している一方、仕入条件に関しては、製造業、建設業、飲食業、サービス業で前年と比べて DI 値の低下が見られ、全体では△26.0（前回は△18.5）と 7.5 ポイントの減少となった。

経営上の問題点について見てみると、前回に引き続き「売上・受注の停滞減少」（52.7%）、「競争激化」（33.2%）、「人材育成」（19.8%）の順で上位を占めた。飲食店、製造業を中心に、「原材料高及び不足」の回答が 11.7%と多く、前回より 5.6%増加した。

○鈴鹿商工会議所地区

現 状

対象 977 社 回答 286 社 回答率 29.3%。「良い・やや良い」と答えた企業が 17.8%（前回 18.8%：前年同期 15.4%）、「やや悪い・悪い」と答えた企業は 46.1%（前回 50.4%：前年同期 56.4%）。また、DI 値が△28.3（前回△31.6：前年同期△41.0）と前年同期より 12.7 ポイント改善している。

現状について、前年同期に比べ改善傾向にある。業種別では、製造業 DI 値△21.1（前回△31.2：前年同期△21.2）、建設業 DI 値△13.7（前回△13.3：前年同期△37.1）、卸業 DI 値△71.5（前回△30.0：前年同期△50.0）、小売業 DI 値△54.4（前回△52.0：前年同期△63.6）、飲食業 DI 値△37.6（前回△63.2：前年同期△44.0）、サービス業 DI 値△37.3（前回△38.5：前年同期△45.4）となった。

見 通 し

「良い・やや良い」と答えた企業が 15.7%（前回 12.9%：前年同期 7.3%）、「やや悪い・悪い」と答えた企業は 44.7%（前回 42.2%：前年同期 52.3%）。また、DI 値が△29.0（前回△29.3：前年同期△45.0）と前年同期より 16.0 ポイント改善している。

今後の見通しについて、前年同期に比べ改善する見通しとなった。業種別では、製造業 DI 値△17.2（前回△27.7：前年同期△31.8）、建設業 DI 値△26.5（前回△20.9：前年同期△41.9）、卸業 DI 値△42.9（前回△50.0：前年同期△66.6）、小売業 DI 値△45.6（前回△42.0：前年同期△65.2）、飲食業 DI 値△43.8（前回△52.7：前年同期△48.0）、サービス業 DI 値△32.6（前回△33.2：前年同期△40.9）となった。

売 上

「増加・やや増加」と答えた企業が 18.5%（前回 23.7%：前年同期 20.5%）、「やや減少・減少」と答えた企業は 49.0%（前回 44.6%：前年同期 57.8%）。また、DI 値が△30.5（前回△20.9：前年同期△37.3）と前年同期より 6.8 ポイント改善しているが、前回より 9.6 ポイント悪化している。

利 益

「増加・やや増加」と答えた企業が 15.4%（前回 19.6%：前年同期 14.2%）、「やや減少・減少」と答えた企業は 48.6%（前回 47.0%：前年同期 55.8%）。また、DI 値が△33.2（前回

△27.4：前年同期△41.6)と前年同期より8.4ポイント改善しているが、前回より5.8ポイント悪化している。

目立った変化等

現状・見通しDI値は、共に回復しているが、売上・利益のDI値は前回より悪化している。安倍政権が掲げる「アベノミクス」の期待感があり、景気回復が見込まれる一方、期待が先行し、実態が伴っていないため、売上や利益についてはこのような結果となったのではないかと推察される。

業種別では、建設業において、鈴鹿市の住宅リフォーム促進事業補助金によりリフォーム受注が増加、さらに、消費税増税前の駆け込み需要などに起因したと思われる需要があり、一部改善が見られているものの全体としては、横ばいとなった。見通しでは、消費税増税の影響により、その後は需要低下が見込まれるため悪化していると思われる。製造業において、ホンダの軽自動車の販売が好調に加え、新型車の販売が今後予定されており、試作・金型の受注も増加傾向にあり、改善が見られる。しかし、円安水準ではあるが、ホンダが生産拠点を海外展開するなど今後どのような動きをするか注視する必要がある。卸売業において、卸売りを介さない流通が主流となってきており、苦境に立たされる事業者が散見され、DI値の悪化に繋がっていると思われる。

○亀山商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が18.6%(前年同期12%)、「やや悪い・悪い」が36.3%(前年同期53.0%)となり、DI値は△17.7で、前年同期値△41.0より23.3ポイント大幅に改善しており、前期△35.5と比べて17.8ポイント改善しているという結果となった。

見 通 し

全体では、「良い・やや良い」が16.0%(前年同期12.0%)、「やや悪い・悪い」が41.6%(前年同期49.5%)となり、DI値は△25.6で、前年同期△37.5より11.9ポイント改善しており、前期(△29.1%)と比べても、3.5ポイント改善している。業種別で見ると、前期と比べ建設業に改善の傾向が見られる。

目立った変化等

今回の調査にて、全体として前年同期より状況が改善しているものの、売上、利益関連の質問において「悪い・やや悪い」と回答した事業所の割合がほぼ同水準であり、そのうちの多くが同一の事業所の回答であると予想できることから、回復基調にある事業所と悪化の一途を辿る事業所の二分化が進んでいると考えられる。

また、売上げの状況や販売条件が「好転・やや好転」と回答している事業所が昨年度より増加しているにも関わらず、利益状況が「変わらない・やや減少・減少」と回答した事業所の割合は昨年度と同水準となっている。さらには、経営上の問題点として「原材料高及び不足」や「人件費以外の経費増加」を挙げている事業所の割合が昨年度より明らか

に増加しており、それらの要因が利益を圧迫していることが推察される。昨今の経済状況等からそれらの要因が改善されるとは考えがたく、今後において影響が懸念されるため、注視が必要である。

○津商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が 20.9%（前回 17.6%：前年同期 16.9%）、「やや悪い・悪い」が 36.5%（前回 49.6%：前年同期 44.3%）、DI 値が△15.6（前回△32.0：前年同期△27.4）と前年同期より 16.4 ポイントマイナス幅が増加する結果となった。

業種別では製造業と小売業で悪化傾向が見られたが、建設業と卸売業、飲食業、サービス業、交通運輸業で改善が見られた。中でも建設業は前回 DI 値の△13.7 から今回 DI 値の 15.5 とプラスへ転じた。

見 通 し

「良い・やや良い」が 21.3%（前回 16.2%：前年同期 11.9%）、「やや悪い・悪い」が 31.8%（前回 39.7%：前年同期 46.6%）、DI 値は△10.5（前回△23.5：前年同期△34.7）と前回より 13.0 ポイントマイナス幅が減少する見通しとなっている。業種別では卸売業で横ばいの数値のほか、製造業、建設業、小売業、飲食業で改善見込みの数値を示している。

目立った変化等

経営上の問題点としては、「売上・受注の停滞減少」が最も多く 47.9%となった。次いで「競争激化」41.7%、「製品・商品単価の下落」19.8%となった。前回と比較すると順位の変化はないものの「売上・受注の停滞減少」では今期は 7.1 ポイント降下し、「製品・商品単価の下落」では 7.7 ポイント降下、「人手不足」で 2.9 ポイント、「人材育成」で 2.2 ポイント上昇となり、注視する問題点が分散している傾向が見られる。

業種別に見ると、建設業以外は「売上・受注の停滞減少」を最も困っている問題として捉えているが、建設業では「競争激化」が 48.3%、「売上・受注の停滞減少」が 36.2%と逆転する結果となった。

○松阪商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が 14.1%（前回 11.2%）、「やや悪い・悪い」が 48.1%（前回 54.3%）となり、DI 値は△34.0（前回△43.1）で、前回に比べ 9.1 ポイント改善しているという結果となった。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が 12.5%（前回 11.2%）、「やや悪い・悪い」が 36.5%（前回 37.0%）となり、DI 値は△24.0（前回△25.8%）で前回に比べ 1.8 ポイント改善の見通しとなっている。業種別では建設業、飲食業を除く全ての業種で改善の見通しとなってい

る。

目立った変化等

経営上困っている問題点として、前回に引続き「売上・受注の停滞減少」が 54.9%で最も多く、2位は「競争激化」33.1%、3位は「設備店舗の狭小老朽化」17.8%という結果となった。

○伊勢商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が 21.9%（前回 14.3%）、「やや悪い・悪い」が 40.8%（前回 55.1%）、DI 値 18.9（前回△40.8）と前回に比べ 21.9 ポイント改善している。

業種別では、全業種で改善が見られ、中でも卸売業は前回に比べ 61.6 ポイントと大きく改善している。また、飲食業においても 27.9 ポイント改善している。

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が 21.1%（前回 12.0%）、「やや悪い・悪い」が 39.4%（前回 43.1%）、DI 値△18.3（前回△31.1）と前回より 12.8 ポイント好転している。

業種別では、サービス業がやや悪化の見通しであるが、卸売業、飲食業、製造業、小売業、建設業では改善の見通しとなっている。中でも卸売業は前回に比べ 38.5 ポイント、飲食業は 33.7 ポイントと大きく改善している。

目立った変化等

経営上の問題点として、全体では前回に引き続き、「売上・受注の停滞減少」が 49.6%と最も多く、次いで「競争激化」25.9%、「設備店舗の狭小老朽化」16.7%の順となっている。

業種別では、交通運輸業は「競争激化」、その他の業種は「売上・受注の停滞減少」が第 1 位となっている。その他目立った項目として、飲食業では「設備・店舗の狭小老朽化」が同率一位になったこと、卸売業の「競争激化」の割合が前回の倍以上の数字であることが挙げられる。また、現状・見通しともに大きく改善の傾向が見られた理由としては、御遷宮の効果を挙げる事業所が目立った。

○鳥羽商工会議所地域

現 状

全体では「良い」・「やや良い」があわせて 35.9%、「やや悪い」・「悪い」があわせて 64.2%、DI 値△28.3（前期△38.5、前々期△45.5）と前期よりも改善している。業種別では、製造業を除く業種が改善している。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い」・「やや良い」との回答は 34.4%、「やや悪い」・「悪い」の回答については 35.8%。DI 値は△1.4（前期△26.6）で、前期より 25.2 ポイント改善している。業種別でも製造業を除くすべての業種で改善する見通し。

目立った変化等

最近の売上状況ではD I 値 Δ 26.5（前期 Δ 30.3）となっており、見通しについてもD I 値 Δ 18.9（前期 Δ 30.3）と改善する見通し。経営上困っている問題では、「売上・受注の停滞減少」「設備店舗の狭小老朽化」「競争激化」が前回と引き続き問題点の上位となっている。

○上野商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が14.1%（前回16.4%）、「やや悪い・悪い」が45.2%（前回60.0%）、DI 値が Δ 28.8（前回 Δ 45.9）で、前回に比べ17.1ポイントの改善を示す結果となった。

業種別に前回値と対比すると、全業種において改善し、前回値を上回る結果となった。

見 通 し

全体では、「良い・やや良い」が13.7%（前回14.2%）、「やや悪い・悪い」が39.7%（前回49.4%）で、DI 値は Δ 26.0（前回 Δ 35.2）となり9.2ポイントの改善の見通しとなった。

業種別では、飲食業以外の全ての業種で改善の見通しとなった。

目立った変化等

経営上困っている問題点としては、前回と同様、「売上・受注の停滞減少」が60.3%と最も多く、2位は「競争激化」が27.4%と同じ順位であったが、3位については新たに「原材料高及び不足」が24.7%という結果になっている。

○名張商工会議所地域

現 状

全体では「良い・やや良い」が15.1%、「やや悪い・悪い」が43.1%で、D I 値は Δ 28.0（前回 Δ 35.2）となり、前回より7.2ポイント改善した

見 通 し

全体では「良い・やや良い」が13.6%、「やや悪い・悪い」が40.2%で、D I 値は Δ 26.6（前回 Δ 36.5）となり、前回より9.9ポイント改善の見通しとなった。**目立った変化等**

現状と見通しのD I 値は改善だが、売上の見通し8.6ポイント、販売条件4.6ポイント改善、他の売上状況、利益状況等のD I 値はすべて悪化となった。

経営上困っている問題として「売上・受注の停滞減少」が49.6%（前回56.0%）で最も多く、次いで「競争激化」が26.6%（前回37.7%）で2位、「製品・商品単価の下落」が3位で20.9%（前回16.4%）、4位、人材育成、5位、設備・店舗の狭小老朽化ととなり前回の3位と4位が入れ替わった。

○尾鷲商工会議所地域

現 状

全体では、「良い・やや良い」が 13.6%、「変わらない」が 39.8%、「やや悪い・悪い」が 46.6%、D I 値は△33.0（前回△45.9）と前回より 12.9 ポイント改善している。

見 通 し

今後の見通しについては、「良い・やや良い」との回答が 9.0%、「変わらない」が 41.4%、「やや悪い・悪い」との回答は 49.6%、D I 値は△40.6（前回△41.8）となり、前回の D I 値と比べて 1.2 ポイント好転している。

目立った変化等

経営上困っている問題点については、「売上・受注の停滞減少」との答えが前回よりも 6.7%回復したが 48.1%と相変わらず最も多かった。次いで「競争激化」23.3%、「原材料高及び不足」21.8%の順であった。

業種別で見ても、「売上・受注の停滞減少」が最も多くなっている。その他目立った項目として、「設備店舗の狭小老朽化」の問題が浮上してきている。

○熊野商工会議所地域

現 状

「良い・やや良い」が 16.7%（前回 8.3%：良いがゼロ回答）、「悪い・やや悪い」が 62.1%（前回 70.0%）と 24 年度下期にくらべ少々改善傾向にある。D I 値も△45.4（前回△61.7）となり、改善傾向にある。全体的にみると改善傾向にある業種もあるが、悪化する業種もみられる。

見 通 し

「良い・やや良い」が 9.1%（前回と同じく良いがゼロ回答、前回 5%）と現状同様回復傾向となっており、「悪い・やや悪い」が 50.0%（前回 68.3%）と改善傾向にある。D I 値も△40.9（前回△63.3）となり、全てにおいて悪化傾向となった。今後の見通しは現状同様緩やかではあるが改善傾向にある。

目立った変化等

今回の調査では、現状の「良い」回答が復活したものの、依然として見通しでは「良い」と回答した事業所がゼロになっている。前期に比べ現状・見通し共に数値は改善したが、街の状態を見ているとあまり景気が回復しているようには考えられない。現状・見通し共に改善されたのは、平成 25 年度熊野市が打ち出している、「高速開通！熊野！1 億円キャンペーン！」や鬼ヶ城センターのオープンに伴う需要を受けている業者が回答したとみられる。

景況調査票

平成25年7月

会議所	No.	コード

※各設問に対して該当するものに○をして下さい。

I. 企業の概要

1. 業種 (主たるもの1つ)

〈製造業〉	1. 食料品	2. 繊維品	3. 機械製品	4. 金属製品	5. 木材木製品
	6. 化学製品	7. 土石窯業	8. 印刷・出版	9. その他	
〈建設業〉	10. 土木工事	11. 建築工事	12. その他		
〈卸売業〉	13. 食料品	14. 繊維・身の回り品	15. その他		
〈小売業〉	16. 繊維・身の回り品	17. 食料品	18. 家具・日用品	19. 電気製品	20. その他
〈飲食業〉	21. 飲食店				
〈サービス業〉	22. 美容・理容	23. ホテル・旅館	24. 自動車整備	25. 不動産	26. その他
〈交通運輸業〉	27. 交通運輸	〈その他〉	28. その他 ()		

2. 常時使用従業員数(会社の役員・家族従業員・パートを除く)

1. 0～5人	2. 6～20人	3. 21～50人	4. 51～100人	5. 101人以上
---------	----------	-----------	------------	-----------

II. 企業の経営状況について

3. 現状について…平成25年1～6月の業況は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 良	2. やや良	3. 変わらない	4. やや悪	5. 悪	6. 悪
------	--------	----------	--------	------	------

4. 今後の見通しについて…平成25年7～12月の業況は前年同期に比べてどうなると思いますか。

1. 良	2. やや良	3. 変わらない	4. やや悪	5. 悪	6. 悪
------	--------	----------	--------	------	------

5. 売上状況について…平成25年1～6月の売上は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 増加	2. やや増加	3. 変わらない	4. やや減少	5. 減少	6. 減少
-------	---------	----------	---------	-------	-------

6. 売上の見通しについて…平成25年7～12月の売上は前年同期に比べてどうなると思いますか。

1. 増加	2. やや増加	3. 変わらない	4. やや減少	5. 減少	6. 減少
-------	---------	----------	---------	-------	-------

7. 利益状況について…平成25年1～6月の利益は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 増加	2. やや増加	3. 変わらない	4. やや減少	5. 減少	6. 減少
-------	---------	----------	---------	-------	-------

8. 販売状況 (単価・決済方法) について…平成25年1～6月は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 好	2. やや好	3. 変わらない	4. やや悪	5. 悪	6. 悪
------	--------	----------	--------	------	------

9. 仕入条件 (単価・決済方法) について…平成25年1～6月は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 好	2. やや好	3. 変わらない	4. やや悪	5. 悪	6. 悪
------	--------	----------	--------	------	------

10. 設備投資について

25年1～6月の実績		25年7～12月の予定	
1. 行った	2. 行わない	1. 予定あり	2. 予定なし

11. 資金繰りの現状について…平成25年1～6月は前年同期に比べてどうでしたか。

1. 好	2. やや好	3. 変わらない	4. やや悪	5. 悪	6. 悪
------	--------	----------	--------	------	------

12. 資金繰りの見通しについて…平成25年7～12月は前年同期に比べてどうなると思いますか。

1. 好	2. やや好	3. 変わらない	4. やや悪	5. 悪	6. 悪
------	--------	----------	--------	------	------

13. 借入の現状について…平成25年1～6月はどうでしたか。(借入された方のみ)

1. 容易	2. 普通	3. 困難
-------	-------	-------

14. 借入予定はありますか…(平成25年7～12月)

1. 予定している	2. 予定していない
-----------	------------

14-1. 借入先は、どこを希望されますか。(主たるもの一つ)

1. 民間金融機関	2. 公的金融機関	3. その他
-----------	-----------	--------

14-2. 資金用途は何を予定されていますか。(主たるもの一つ)

1. 運転資金	2. 設備資金
---------	---------

15. 現在経営上で、困っている問題点は何ですか。あれば3つ以内で選んでください。

1. 売上・受注の停滞減少	6. 設備・店舗の狭小老朽化	11. 競争激化
2. 製品・商品単価の下落	7. 売掛・債権回収の悪化	12. 人材育成
3. 人手不足	8. 人件費の増加	13. 立地条件の悪化
4. 過剰人員	9. 人件費以外の経費の増加	14. 法的規制等(緩和を含む)
5. 借入	10. 原材料高及び不足	15. 税務・経理問題

16. その他困っている問題・ご意見等があればご記入下さい。

()

ご協力ありがとうございました。